

皆さんの声を生かした まちづくりを進めます

平成13年度世論調査

「我が家の地震対策」・「家庭紙の消費状況」について

データ

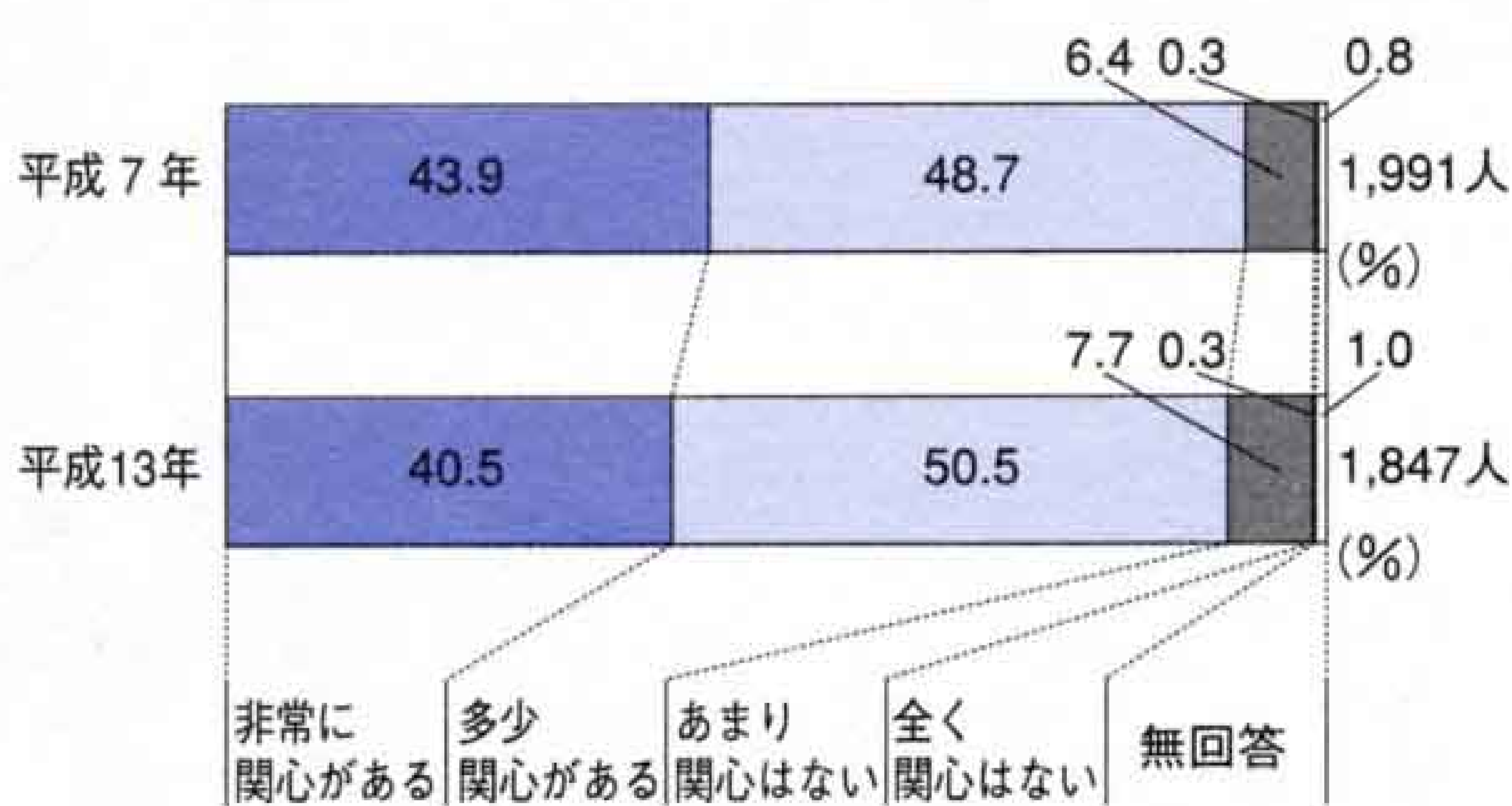
対象 市内在住の満20歳以上の男女3,000人
 抽出方法 住民基本台帳から等間隔無作為抽出
 調査期間 平成13年6月15日～30日
 調査方法 郵送調査
 有効回収数率 1,847人 (61.6%)
 ※比率は百分率で表示し、小数点以下第2位を四捨五入していますので、合計が100%にならない場合があります。

市では、市民の皆さんの意見や要望を市政運営の基礎資料とするために、毎年世論調査を実施しています。

ことしで第30回となる世論調査のテーマは「我が家の地震対策」・「家庭紙の消費状況」についてです。その結果がまとまりましたので、お知らせします。

『東海地震』への関心

Q あなたは現在、『東海地震』にどの程度の関心を持っていますか？

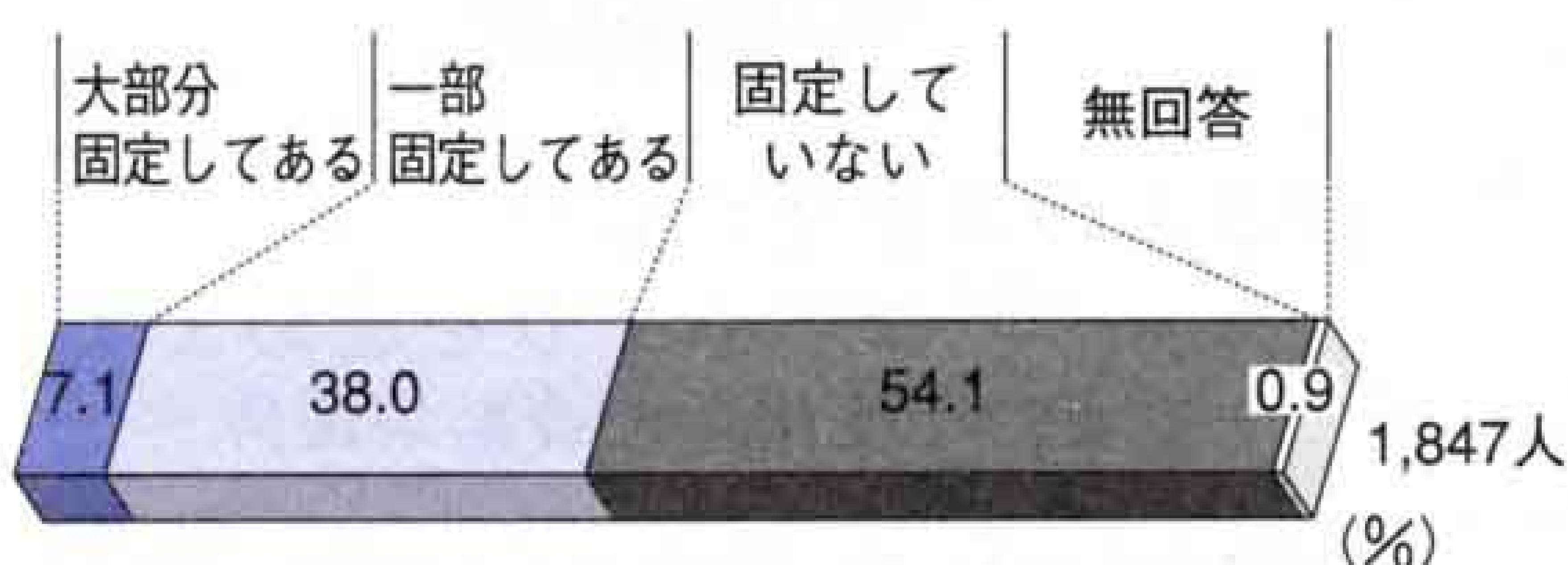


約九割の人が、東海地震に「関心がある」と回答
 年齢別に見ると、「非常に関心がある」「多少関心がある」という人は、いずれの年代においても九割前後を占め大差は見られませんでした。
 平成七年の調査結果と比較すると、関心のある人は、平成七年の九二・六％に対し、九一・〇％と大きな変化はなく、その他の項目もほぼ同率の結果になっています。

我が家の地震対策について

家具類の固定

Q あなたのお宅では『東海地震』などの大地震に備えて「家具類の固定」をしていますか。

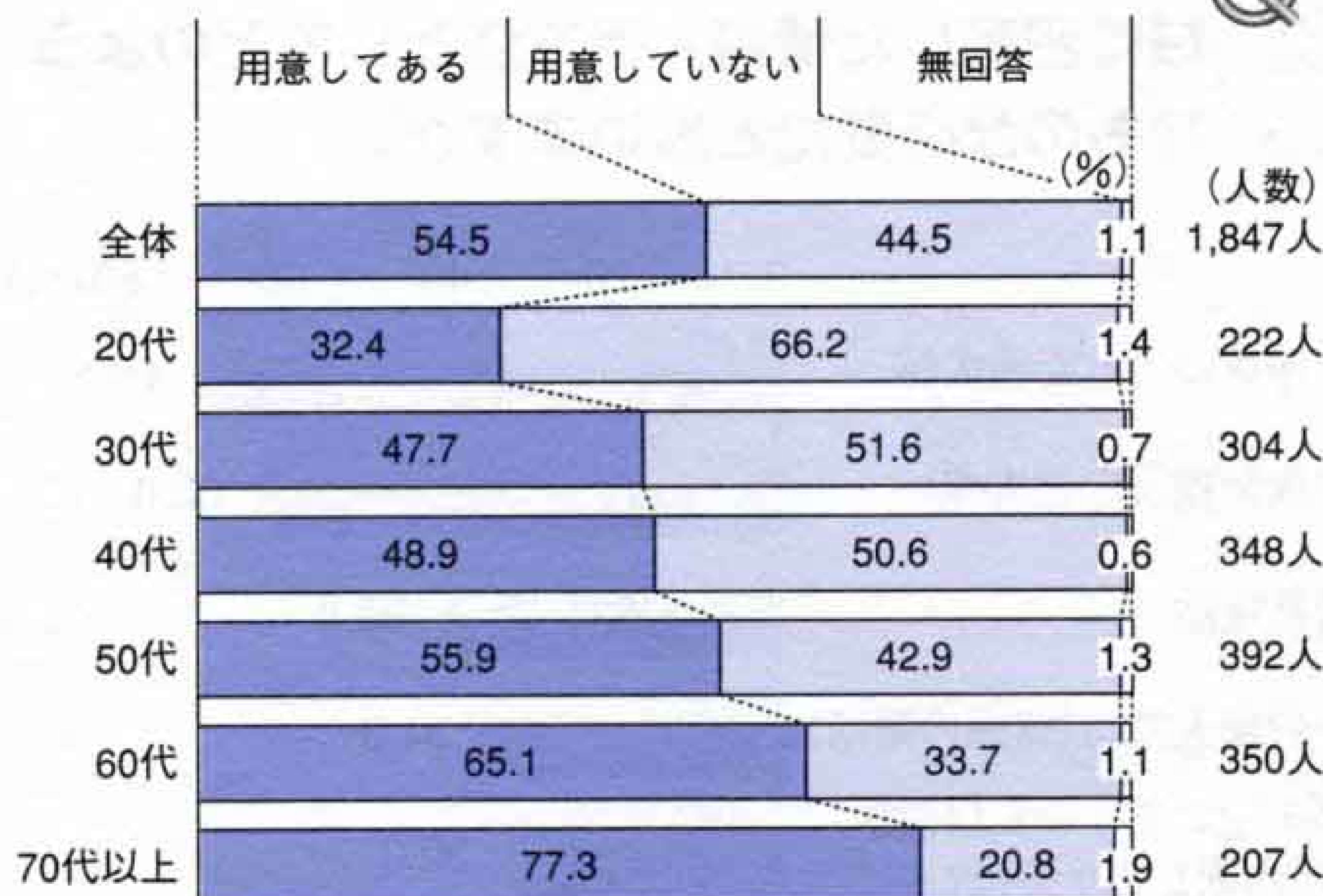


半数以上の人が「固定していない」と回答
 大地震に備えた家具類の固定については、「固定していない」と回答した人は、「大部分固定してある」「一部固定してある」と回答した人を上回り、五四・一％となっています。
 年齢別に見ると、大部分または一部固定してあると回答した人は、七十代以上では六割近く、一方で二十代・三十代では、固定していない人が六割以上となっています。

非常持ち出し品の用意



あなたのお宅では『東海地震』などの災害に備えて「非常持ち出し品」の用意をしていますか。



高年齢層ほど「用意してある」人は多数
 非常持ち出し品については、「用意してある」が五四・五%、「用意していない」が四四・五%で、用意してある人が半数以上を占めています。
 年齢別に見ると、高年齢層ほど「用意してある」という人が多く、七十代以上では八割近くとなり、最も少ない二十代では三割程度となっています。



家屋の耐震診断の実施状況



あなたのお宅では、これまでに自分が住んでいる家屋の耐震診断をしたことがありますか。

耐震診断をしてみよう！

阪神・淡路大震災では、死亡者の8割以上が家屋の倒壊や家具の転倒による圧死者でした。自分が住んでいる家屋の耐震性を確認することは、重要な防災対策です。

市では、県と協力して、昭和56年5月31日以前に建築された木造一戸建て住宅を対象とした「プロジェクトTOUKAI-O」を実施し、家屋の耐震診断を推進しています。

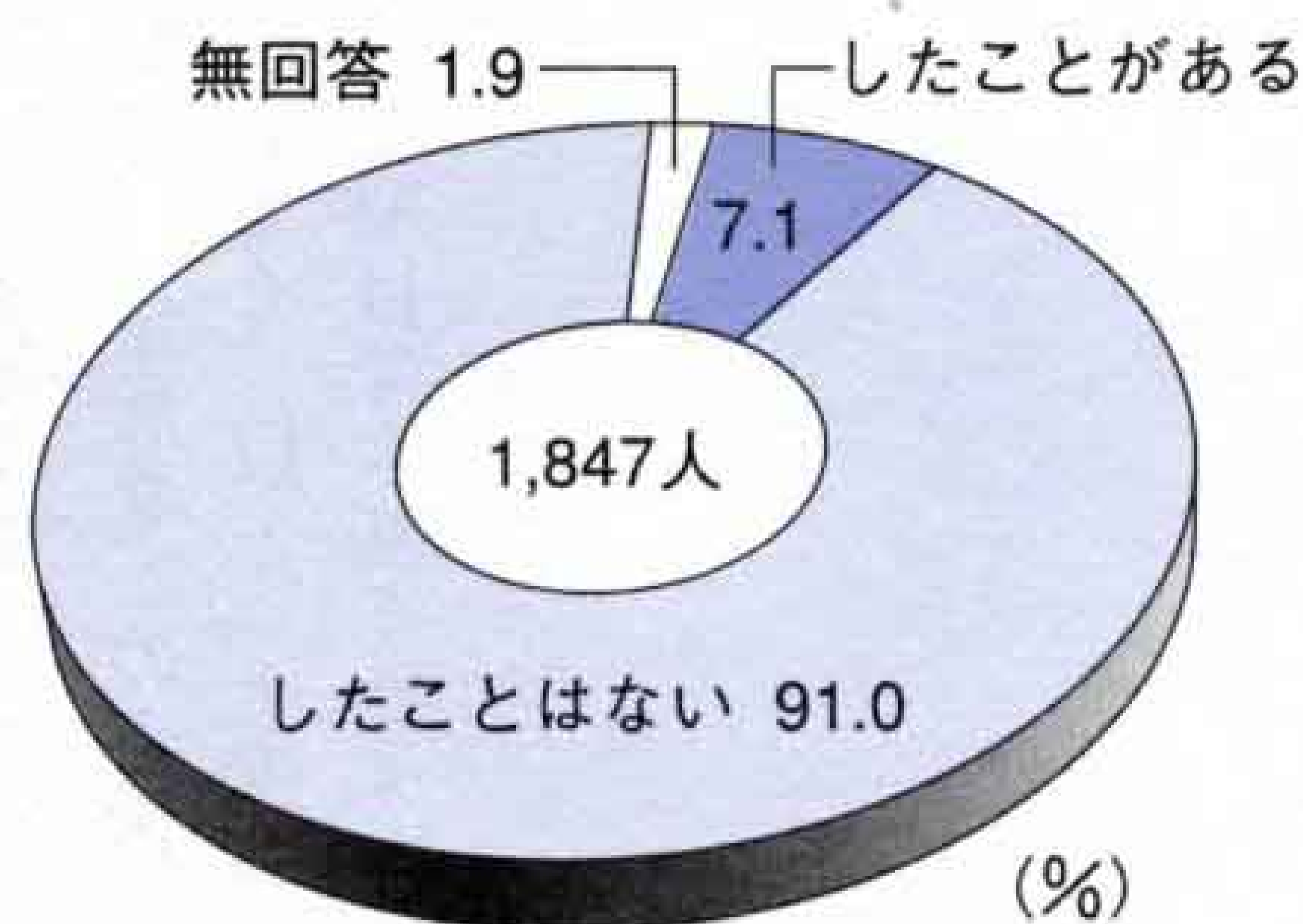
市内の公民館に、簡易耐震診断の調査表がありますので、まず、自宅の簡易耐震診断をしてみましょう。

※簡易耐震診断の結果に応じて、専門家による診断を行います。専門家による診断を希望する人は、簡易耐震診断をした調査表を、防災対策課、または公民館に提出してください。



問い合わせ 防災対策課 ☎55-2715

九割以上の人が「したことはない」と回答
 家屋の耐震診断については、「したことがある」が七・一%、「したことはない」が九一・〇%となっています。年齢別に見ると、「したことがある」は高年齢層になるほど多くなるものの、最も多い七十代以上でも九・二%と一割以下になっています。



自由意見

この調査では、各設問の回答のほかに、テーマに関する自由意見や要望などを書いていただきました。その中からいくつか要約してお知らせします。

〈情報提供〉

- ・地域ごとの被害予測（ハザード）マップを作成してほしい。

- ・東海地震が発生したとき、市としてののくらの対応がとれるのかははっきりさせてほしい。

- ・広報紙で地震の対策状況を知りたい。
- ・地震予知情報を、常時インターネットで公表してほしい。ゆれを感じない地震があったときも教えてほしい。

〈家庭での対策〉

- ・今回のアンケートを機に我が家の地震対策をしたい。

- ・各家庭に非常用リュックサック・防災用品を分けてほしい。

〈防災意識〉

- ・全体的に地震対策に無関心な人が多いので、市民に関心を持たせるよい方法があったら実施してほしい。
- ・地域の人たちが助け合わなければいとも思っている。

〈耐震化〉

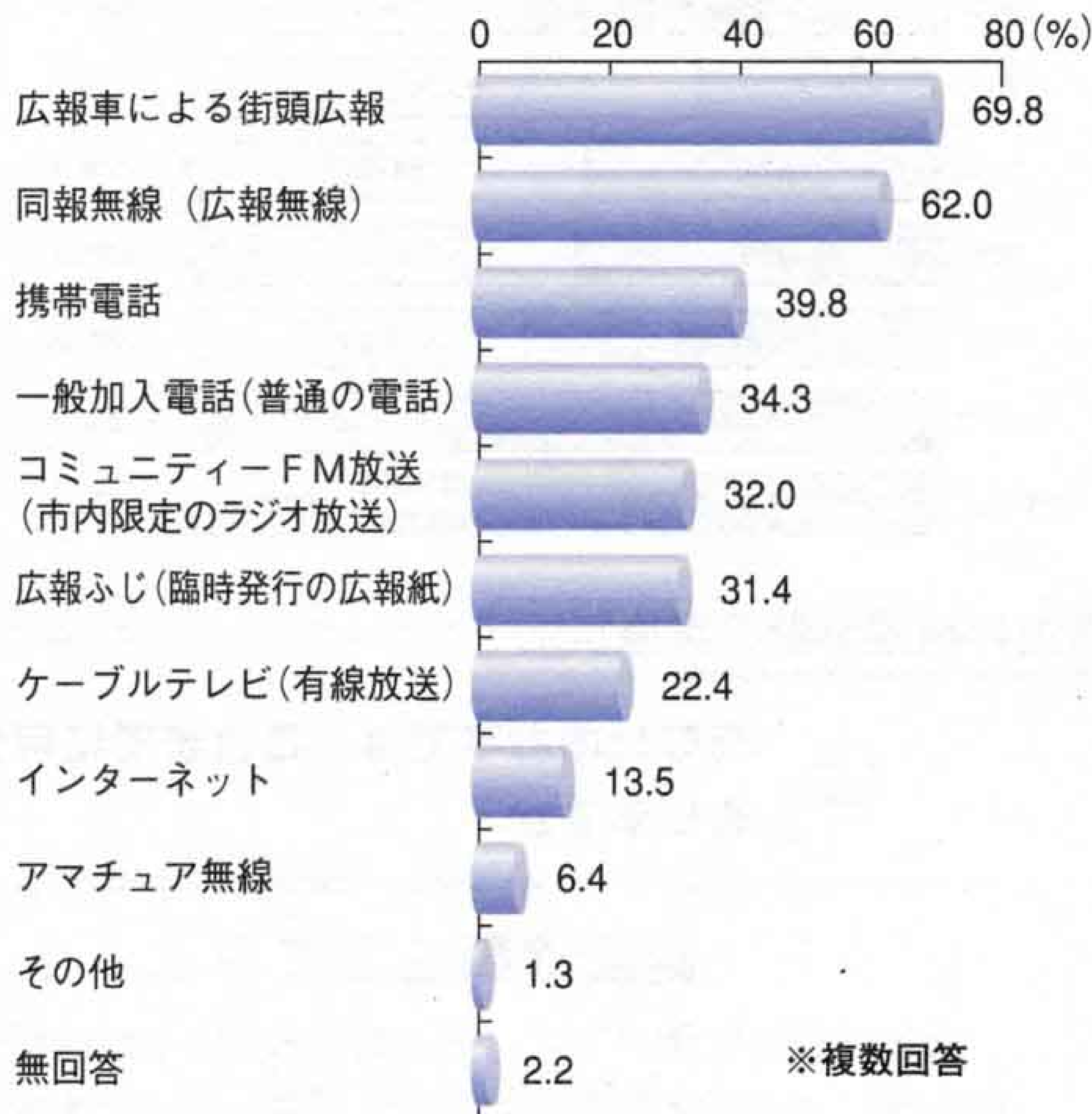
- ・耐震診断のやり方や費用を、広報紙で取り上げてもらいたい。（上述）

- ・独居老人の家の家具の固定など、市で回って対応したほうがよいと思う。

- ・道路などのブロック塀が安全かどうか、再チェックを呼びかけてほしい。

Q 東海地震が発生した場合、どのような情報を知りたいと思いますか。

Q 警戒宣言発令時および東海地震発生後、地域に密着した情報入手方法としてどのようなものが必要だと思いますか。



約八割の人が「家族などの安否」と回答

東海地震が発生した場合に知りたいと思う情報については、「家族などの安否」が七七・七%と最も多く、以下「余震の状況」までの上位七項目で六割を超えています。

年齢層を問わず「広報車による街頭広報」「同報無線」が多数

地域に密着した情報の入手方法として必要だと思えるものには、「広報車による街頭広報」が約七割を占め最も多く、次いで「同報無線(広報無線)」が約六割、「携帯電話」が約四割となっています。

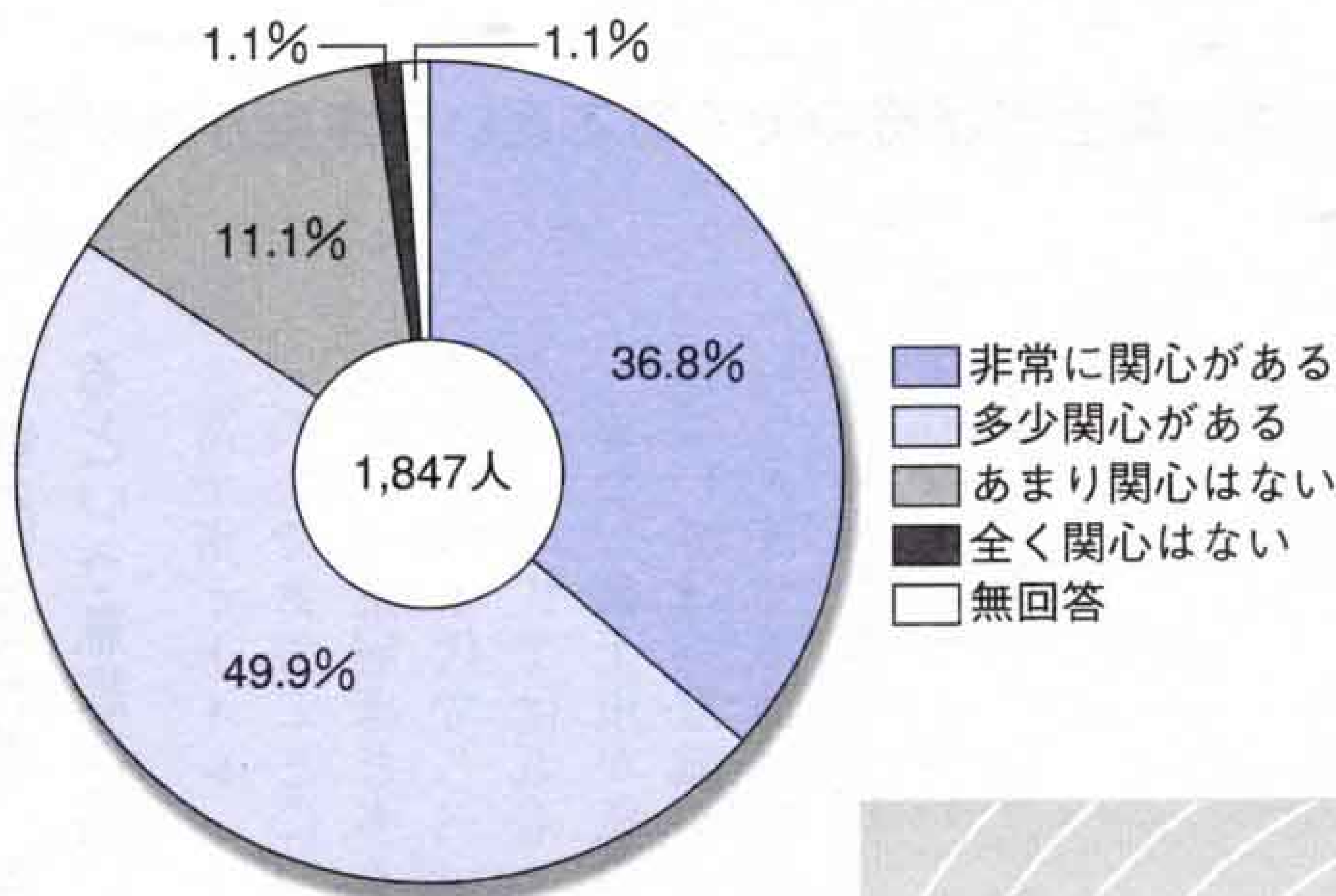
年齢別に見ると、四十代以下では「携帯電話」が「一般加入電話」を大きく上回っています。



自由意見

- ・〈地震予知〉
 - ・予知の精度を上げて、被害を極力抑えられるように努力をしてほしい。
 - ・正しく早い予知情報を知らせてほしい。
 - ・富士市独自の地震予知の研究に力を注いでほしい。
- ・〈防災訓練〉
 - ・県下一斉に、企業なども含め、全体で訓練しなければ意味がないのでは。
 - ・富士市全域の地震対策も必要だが、立地条件を踏まえて地域に添った対策を考慮し、訓練すべきだと思う。
- ・〈避難〉
 - ・障害を持った人たちの避難の方法、避難場所などを教えてほしい。
 - ・富士市には大きな工場が多く、地震が起きたらどうなるのかとても不安。
 - ・避難場所の建物が古くて心配。本当に安全なのだろうか。
- ・〈富士山〉
 - ・東海地震よりも富士山の噴火の方が関心がある。
 - ・噴火したら富士市のどの地区にどのような被害が予想されるのかなど、具体的な情報を知らせてほしい。
- ・〈その他〉
 - ・住宅密集地は道路幅を広くするなど、道路の整備をしてほしい。
 - ・私たちの地域は工業地帯のため、大きな地震や津波が来たときに心配。
 - ・災害が起きたときのボランティア受け入れの基礎をしっかりとつくっておく必要があると思う。

あなたは現在、『富士山付近の低周波地震活動』にどの程度の関心を持っていますか。



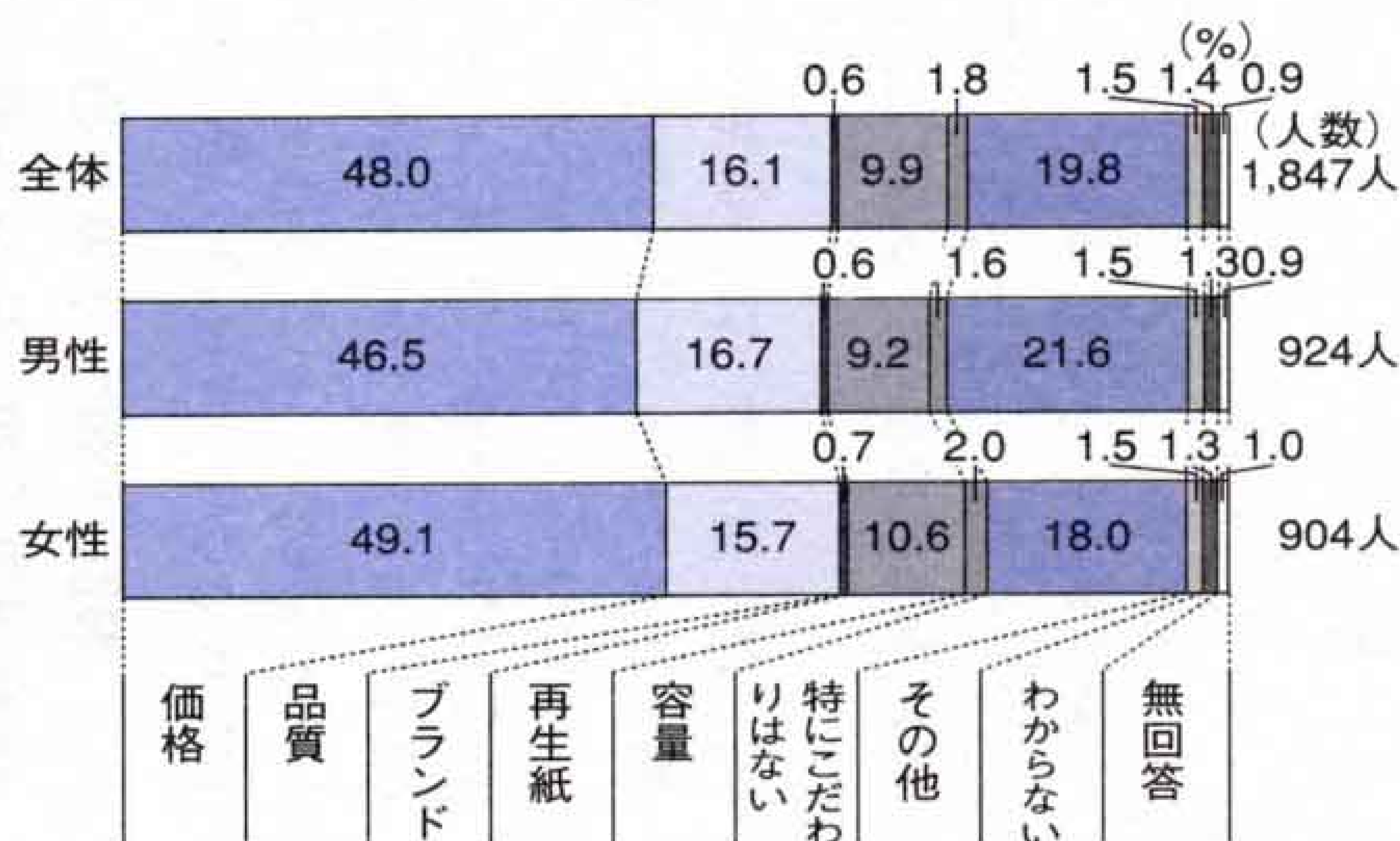
八割以上の人が、「関心がある」と回答

『富士山付近の低周波地震活動』に対しては、「非常に興味がある」が三六・八%、「多少興味がある」が四九・九%で、両者をあわせると八六・七%と大半を占めています。

年齢別に見ると、関心のある人はいずれの年代においても八〜九割を占めています。また、「非常に興味がある」という人は、五十代以上で四割を超えています。

トイレトーパー購入時の重視点

トイレトーパーを購入するときに、最も重視することは何ですか。

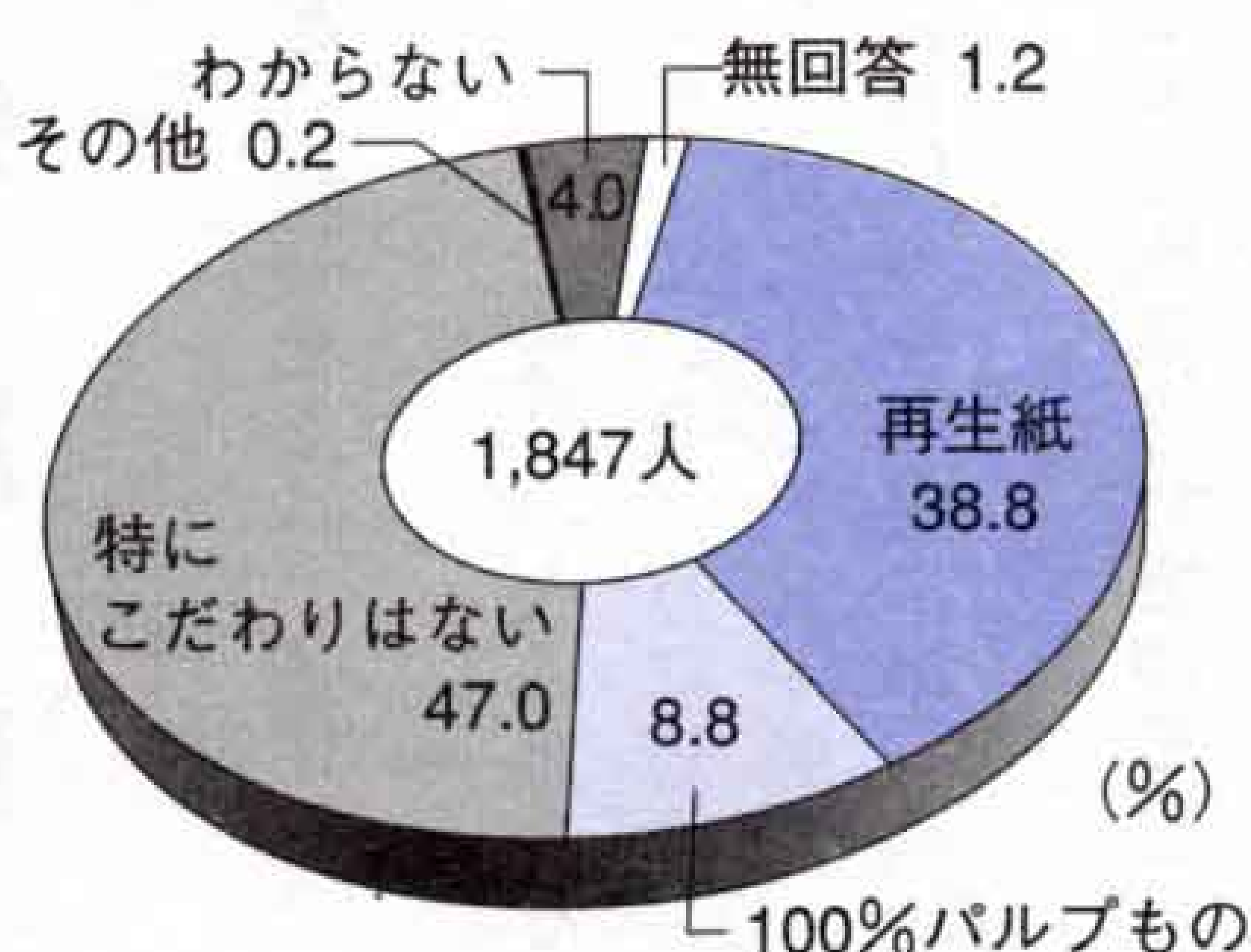


半数近くの人が、購入の際に「価格」を重視
 トイレトーパーを購入する際に最も重視する点としては「価格」が四八・〇%で最も多く、次いで「品質」が一六・一%、「再生紙」が九・九%となりました。しかし、約二割の人は「特にこだわりはない」としています。

家庭紙の消費状況について

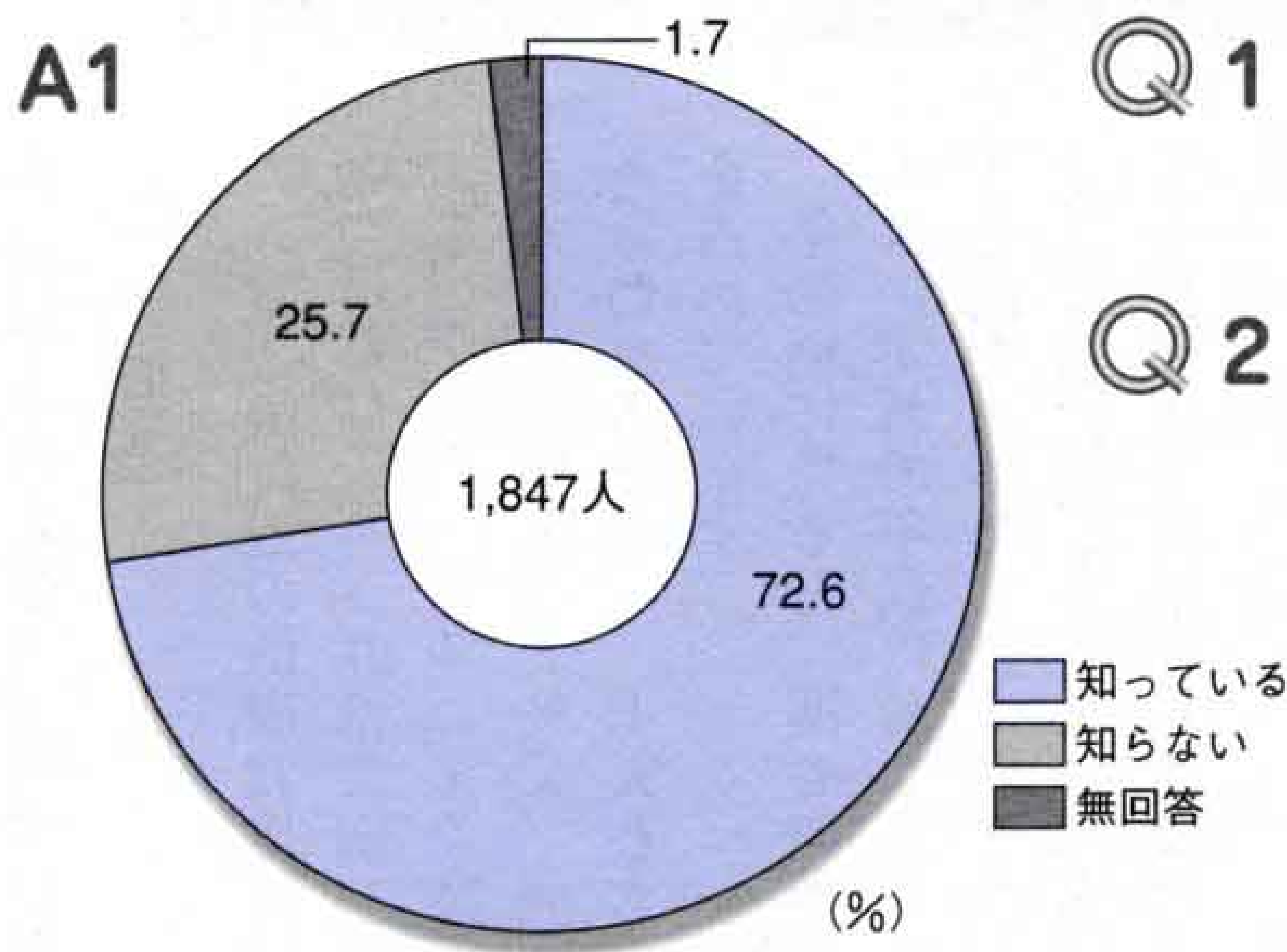
購入するトイレトーパーの素材

ふだん購入するトイレトーパーの素材はどれですか。



素材には特にこだわりがない人が多数
 ふだん購入するトイレトーパーの素材については、「再生紙」が三八・八%で、各年代において四割前後を占めています。「一〇〇%パルプもの」の八・八%を大きく上回るものの、「特にこだわりはない」が四七・〇%で最も多くなっています。

富士市が紙の街であるという意識など



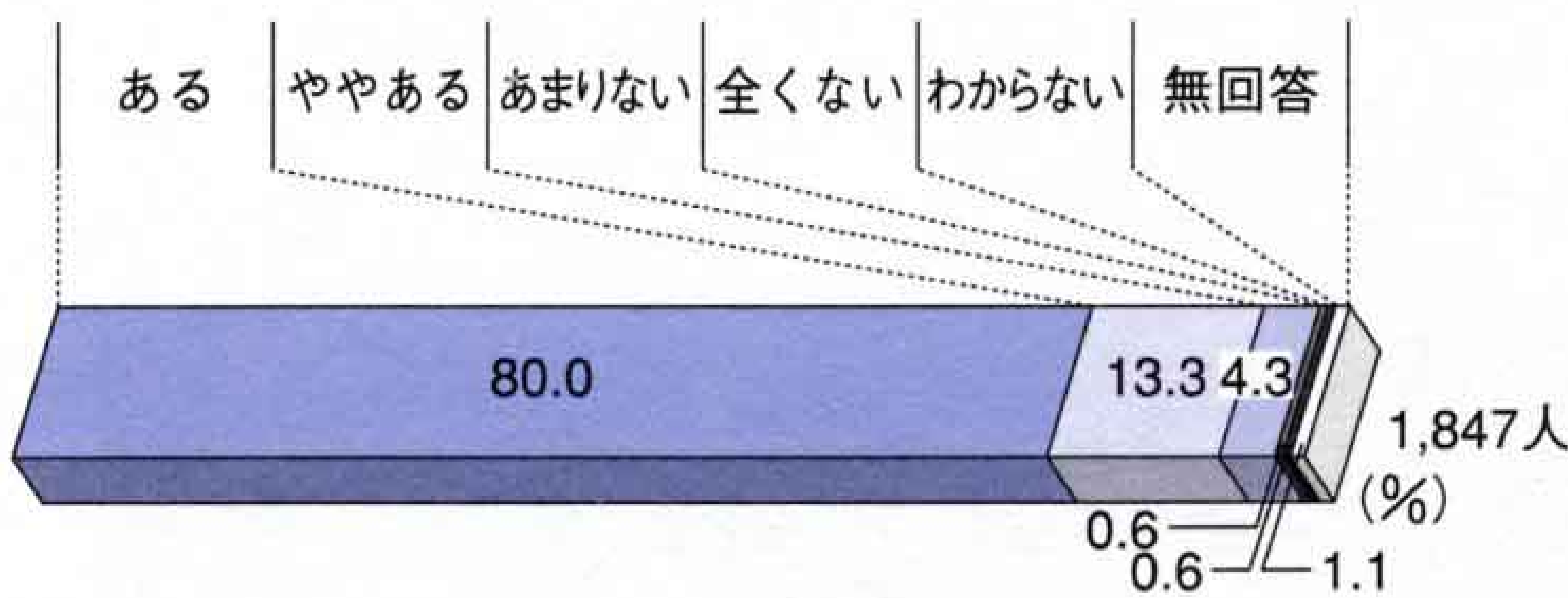
Q 1

あなたは富士市がトイレットペーパー生産量が日本一の街であることを知っていますか。

Q 2

あなたは、富士市が紙の街であるという意識がありますか。

A2



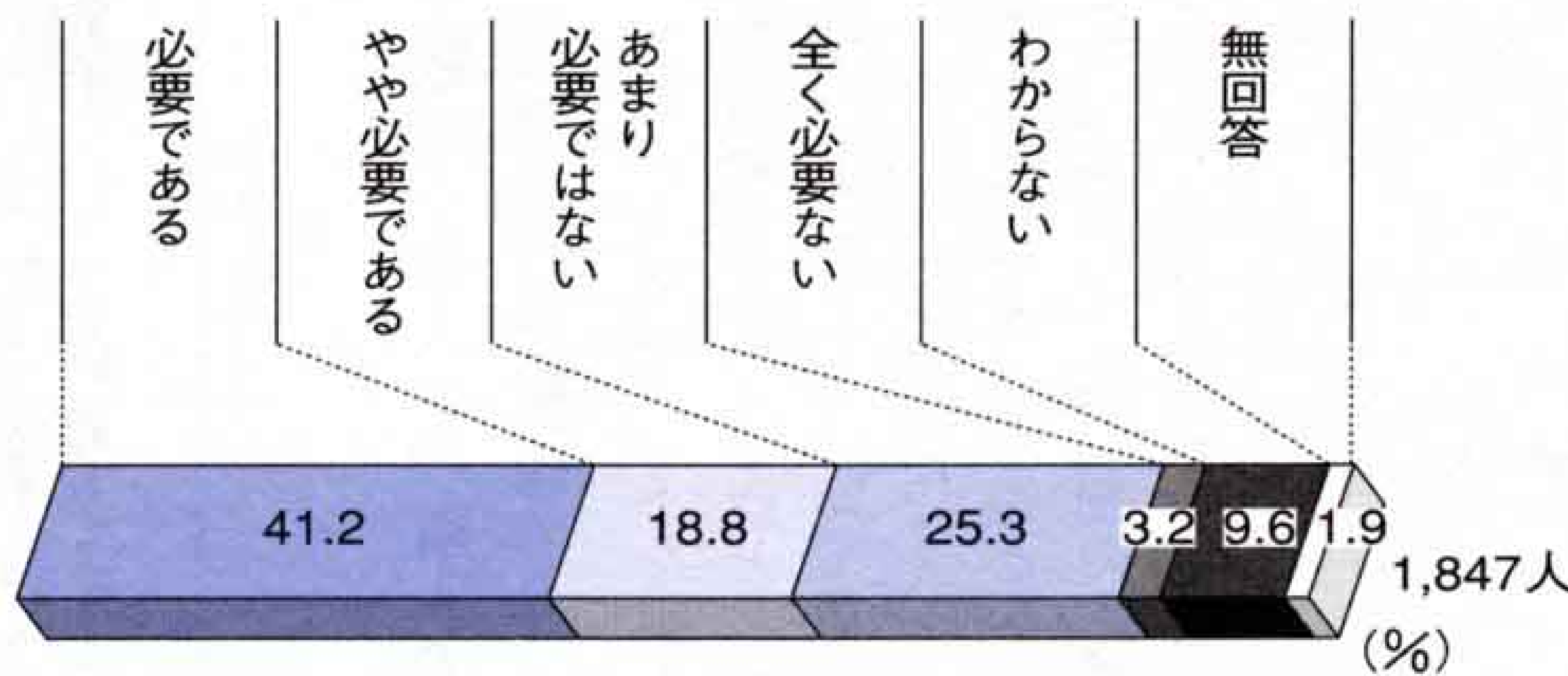
年齢層を問わず、富士市が紙の街であるという意識は高い

富士市がトイレットペーパー生産量日本一の街であることについては、「知っている」人は高年齢層ほど多くなる傾向にあり、最も多い六十代で八三・七%に対し、最も少ない二十代では五五・〇%となっています。また、富士市が紙の街であるという意識については、意識が「ある」「ややある」という人は、年齢層にかかわらず九割の多数を占めました。全体的に見ても、意識が「あまりない」「全くない」という人は四・九%で、ごくわずかになっています。

紙の街であることをPRする必要性

Q

紙の街であることをもっとPRすることが必要だと思いますか。



約六割の人が、紙の街であることのPRが必要と回答

紙の街であることをもっとPRすることについては、「必要である」「やや必要である」をあわせた必要と思う人は、約六割を占めています。一方で、「あまり必要でない」「全く必要でない」をあわせた必要ないと思う人は、約三割となっています。

性別に見ると、必要と思う人は男性が五六・七%、女性が六三・四%で、女性の方がやや多くなっています。

自由意見

〈環境対策〉

・企業への規制、指導をもっと強化してほしい。

・紙の街だけあって、他県の人に比べると紙をむだに使っているように思う。もっと資源を大切にPRが必要。

・紙の節約、森林保護を前面に出したい。

〈PR〉

・煙突が多くて大気汚染されている感じがするので、明るいイメージでクリーンな市をPRしたほうがよい。

・トイレットペーパーの生産日本一は、もっとPRしてよいことだと思う。

・紙の工芸館、美術館、博物館などをつくったらよいのでは。

〈販売〉

・紙の街だからこそ、安い価格で販売してもらいたい。

・富士市でしか買えない紙製品をつくり、インターネットで販売したらよいのではないかと思う。

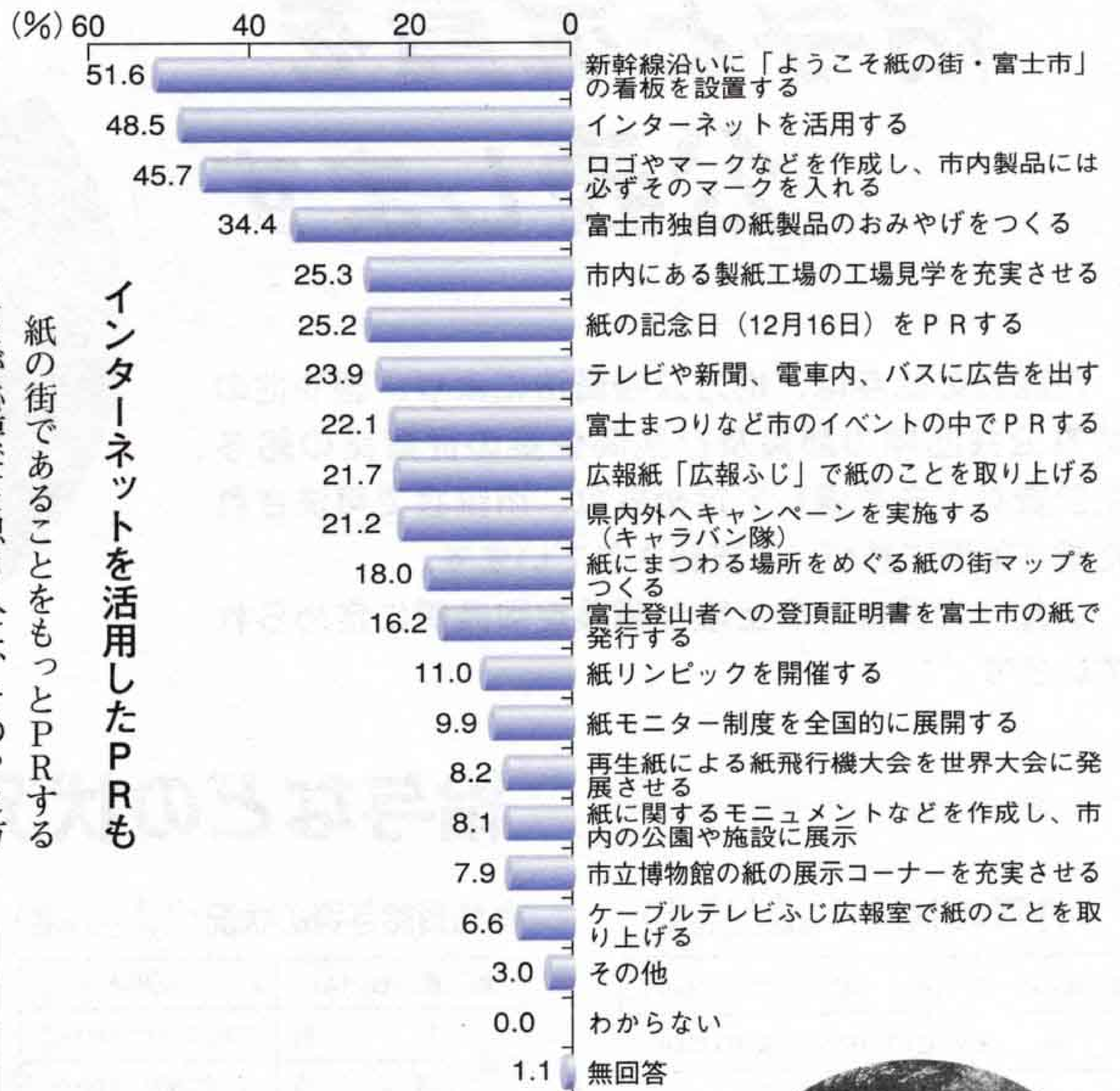
・商品化されなかった不良品でも、使い捨ての紙はいくらあっても困らないのでそういうものを安価で売ってほしい。

〈紙の街〉

・悪臭や騒音を減らすことができれば、もっと胸を張って『紙の街』をPRできると思う。

・紙をつくっているだけの日本一ではだめです。紙を使い終わった後のことも考えながら、企業に働きかけることが必要。

Q 紙の街をPRするには、主にどのようにしたらよいと思いますか。



紙の街であることをもっとPRすることが必要だと思ふ人に、そのPR方法を尋ねたところ、「新幹線沿いに『ようこそ紙の街・富士市』の看板を設置する」が五一・六%と半数を超えています。次いで、「インターネットを活用する」が四八・五%、「紙の街・富士市」のロゴやマーク、キャラクターなどを作成し、市内でつくられた製品には、必ずそれらのマークを入れる」が四五・七%などの順になっています。

インターネットを活用したPRも



▲紙のクラフト展示(全国紙業振興大会 ペーパーフェア)



◀▶ペーパーランド(全国紙業振興大会)

自由意見

- ・〈リサイクル・再生紙〉
- ・地元のみんなに、もっと再生紙のトイレットペーパーを使ってほしい。
- ・『紙の街』リサイクルの街』としてのPRが必要であるし、リサイクル向上に向けて研究や企業努力などが必要。
- 〈素材・品質〉
- ・品質のよいものをつくってほしい。
- ・トイレットペーパーなどの表示などをもう少しわかりやすく、手にとればすぐわかるようにしてもらいたい。
- 〈その他〉
- ・旅先で、富士市でつくられたトイレットペーパーにめぐり会おううれしくなります。
- ・PS(ペーパースラッジ)灰の有効活用の実施をお願いしたい。
- ・製紙会社ごとに、どのような紙製品をつくっているか、大まかな紹介コーナーなどを公民館などに置いたらどうでしょうか。

お忙しい中、今回の調査にご協力いただきました皆さん、ありがとうございます。皆さんからいただいた貴重なご意見を今後の市政の参考にし、まちづくりを進めていきます。

なお、詳しい調査結果は、各図書館や富士市のホームページで閲覧できます。

◆世論調査に関する問い合わせ

広報広聴課 ☎五五二七〇〇